

2016 Esri User Conference 体験記

広島大学大学院工学研究科 松尾薫

■概要

期間：2016年6月26日～7月1日

場所：San Diego

■はじめに

「2016 Esri User Conference (UC)」は世界最大規模の GIS ユーザー会であり、今年は 138 カ国から 16,000 人以上の Esri 製品ユーザーが参加し、日本からは 80 人を超えるユーザーが参加しました。私は「第 5 回 Esri Young Scholars Award」の受賞者としてこのユーザー会にご招待いただきました。またこの会では、研究室の指導教員の先生、および同研究室の後輩の学生 3 名（修士課程）と共に行動していました。この体験記が今後参加されるみなさまの参考になれば幸いです。

■出国から UC 参加まで

飛行機は、関西国際空港からサンフランシスコ経由でサンディエゴに到着するという行程でした。この乗り継ぎに 4 時間ほど時間があったため、まずはサンフランシスコの中心部に行くことにしました。サンフランシスコは少し肌寒かったです。BART という電車で、空港からは 30 分程度で中心地に行くことができます。ちょうどその時期、San Francisco PRIDE パレードが開催されており、多くの人が賑わっていました（写真 1）。1 時間程度街を散策した後、空港に戻りサンディエゴ行きの飛行機に乗り継ぎました。バスを使って、空港からホテルに向かい、その後は先に到着されていた研究室の先生と日本から来られていた



ユーザーの方とともに夕食を食べ、次の日から始まるユーザー会に備えてホテルに戻りました。

■UC (1日目)

参加登録を行った後、開会式に参加しましたが、まずはその規模の大きさに圧倒されました（写真2）。また基調講演の冒頭で、Jack Dangermond 氏が「ユーザー同士で簡単にコミュニケーションをとりましょう」と会場全体に声をかけ、その場にいた全員がそばにいた人たちと会話する時間があり、それがとても印象に残っています。私は少し緊張しましたが、後ろの席の方と自己紹介し合うことができました。基調講演では「Enabling a Smarter World」というテーマの中で、多くのデジタル化された情報を用いて私たちユーザーが何をすべきかが示されたように思います。またその関連で、Los Angeles における誰もがデジタル地図上で情報を共有できるサービス（Geo Hub）が紹介されていたのが印象に残っています。

午後はマップギャラリー（写真3、4）が開催され、そこで他国の受賞者たちと話す機会がありました。また、私の研究内容に関して質問してくださった方々とお話しすることができて、時間が過ぎるのがあっという間でした。マップギャラリーの中では「green infrastructure（緑を都市の中に適切に組み込み、その自然のプロセスを利用して都市の課題を解決しようとする取組み）」のコーナーが大きく設けられていました（写真5）。このテーマは自身の研究と関連した部分があったため、そこで説明を聞くことができ、楽しい時間を過ごすことができました。夜は会場近くの Seaport village 付近でご飯を食べました（写真6）。

■UC (2日目)

この日は各セッションで行われていた研究発表を聴講したり、企業展示会を見たりしました。企業展示会では、ドローンの飛行や模擬飛行の体験が見学でき、また GIS の様々な



Application を実際に使うことができました(写真 7、8)。何時間でもそこにいられるような、本当に楽しい空間でした。またこの会場では ESRI グッズが販売されており、そこでTシャツや本を購入しました(写真 9)。人気の商品はすぐに売り切れてしまうので、早めに購入することをお勧めします。昼食(写真 10)を食べ、午後にはアジアパシフィックユーザーーグループミーティングに参加し、その後の屋外での食事会では ESRI ジャパン代表取締役社長、正木千陽さんとお話できる機会があり、そこでおめでとうと声をかけていただきました。夜は ESRI ジャパン主催の教育機関関係者向けパーティーに招待していただき、そこで日本のユーザーの方々と交流することができました(写真 11)。

■UC (3日目)

午前中は「Geodesign as a Decision Support Tool for Sustainable Development」というセッションで研究室の後輩 1 人の発表がありました(写真 12)。そこには Geodesign に関する研究を行っている方々が集まっており、活発な意見交換がなされ、それらを聞いているだけで勉強になることばかりでした。特に Geodesign の第一人者である Carl Steinitz 教授がいらっしゃり、意見を下さったときには静かに興奮していました。午後は「Esri Young Scholars Award」の授賞式があり、そこで立派なトロフィーをいただき、それが今までにない経験でとても嬉しかったです。Jack Dangermond 氏、他国の受賞者達、そしてお世話になった方々との写真撮影も行うことができました(写真 13、14、15)。

■UC (4日目)、現地調査、Night Party

午前中は「Anticipating the Future, Protecting Quality of Life」というセッションで研究室の後輩 2 人の発表がありました。このセッションでの発表はこの 2 人のみでしたが、3 日目とほぼ同じ人たちが集まり、その方たちから多くの質問やアドバイスをいただきました(写真 16、17)。また Carl Steinitz 教授とは記念撮影をしていただくことができま



した（写真 18）。このセッションのあとは、サンディエゴ北部にあるラホヤ地区に行ってきました。この地区は海岸と丘陵が特徴的なリゾート地として知られており、綺麗な海沿いの景色と野生のアザラシを堪能することができました（写真 19、20）。また、同じ地区にあるルイス・I・カーンが設計したソーク研究所（研究棟）を見に行くことができました。ここは、ノーベル賞学者を多く輩出する生物医学系の研究所であり、広く青い海と空が似合う、圧倒的な存在感をもつ建築です（写真 21）。その後、Night Party 参加のため、サンディエゴのダウンタウンから少し離れた場所にある Balboa Park に向かいました。このエリアには、自然史博物館、鉄道模型博物館、美術館、宇宙博物館など様々なエンターテイメントが集まっており、4 時間弱の滞在では全てをじっくり見ることが難しいほどでした（写真 22、23、24）。

■おわりに

今回はこのような刺激的な会に参加させていただくことができ、本当に充実した毎日でした。また「Enabling a Smarter World」に向けて、私の研究も1つずつ進めていかなければならぬと自身を奮起させるきっかけになりました。さらに、私は UC 参加の後、Redlands 大学への留学も予定していたため、この会で留学先の大学の先生方と知り合いになることもできました。

最後に UC 参加にあたり、土田様をはじめとする ESRI ジャパン株式会社の皆様、諸先生方、その他関係者各位に多大なるご配慮とご支援を賜りました。ここに心より感謝の意を表します。

